

10・21法大&国会デモへ!

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

2014年9月10日
No.221

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

9/3~4全学連大会での発言から③

◆法政大学文化連盟・武田雄飛丸委員長

みなさん、本当にありがとうございました。法大闘争史上最速の3ヶ月で戻ってきました。全国での奪還運動のおかげです。何より、法大の仲間が首都圏の学生と団結し、団結破壊として行われた今回の弾圧を、常にわれわれの闘いがそうであったように、逆に団結の拡大として反撃したことの成果だと思っています。

「保釈条件」で、5月13日の逮捕当日に現場にいた仲間や法大当局の「被害者」たちには、弁護士を介してしか会ってはいけないとされています。これ自身が、明らかに法大闘争への弾圧です。

先ほど藤田城治弁護士が発言されたように、本弾圧はやはり「7・1閣議決定情勢」下での戦争政治の一環です。

今年4・25法大闘争の爆発も、もちろん背景にあります。そうした中で、法大闘争での5年ぶりの起訴攻撃です。その上でこれまでと何が違うかと言えば、今年4月からの田中優子新総長体制下での初めての起訴だということです。田中優子総長は、「戦争をさせない1000人委員会」の呼びかけ人です。

いま僕らは、新しい学生たちと団結してさまざまな闘いに法大闘争型の激突を「輸出」する段階に入っています。「首都圏学生運動復活会議」を中軸に討論していますが、そこでは、「田中優子のような体制内『左派』をどう位置づけるか」「一応良いことを言っているし、いいんじゃないの」「『打倒対象』とまで言えるのか」という議論を行っています。

これもやはり「オール沖縄」という話と同じですが、いま大学人がキャンパスで安倍の「大学改革」を意識的に推進している。安倍の戦争政治のお先棒を、大学権力を行使してキャンパスで担っているということが一番大事だと思うんです。

今回の弾圧で田中優子が踏み込んできたのは、敵の一つの

決断です。「器物損壊」も「暴行」も、法大当局が積極的に「被害届」を出さなかったら絶対に成立しない。今年2月の「暴処法」弾圧の無罪確定と4・25闘争の爆発で、安倍の戦争政治とのほ

ざまで追いつめられた田中優子が、ついに本性をむき出しにしたのが今回の弾圧です。追いつめられた体制内「左派」は、こうして最もラディカルに闘う者を権力に売り渡す。これは田中優子だけの問題じゃなく、沖大の仲地博学長をはじめ、各大学でおきていることです。田中優子の打倒抜きに安倍打倒もない、大学に巣くうこうした体制内「左派」を容赦なく打倒するんだとはっきりさせたい。

「7・1情勢」に対して、本当に多くの学生が立ちあがり始めている。今までイラク戦争や「11年3・11」が非常に多くの学生が立ちあがる大きな契機でしたが、「7・1」はそれと同質あるいはそれをも超えるものとしてあります。そうした中で、体制内「左派」が問題になってくる。「戦争をさせない」と口先では言っても、じゃあ現場ではどうなのかということが問題になってくる。

「法大闘争は『ハードルが高い』んじゃないか」「『特殊』なんじゃないか」という議論も出てくる。法大闘争は現象的には激しいので、「ハードルが低い」という言い方はしませんが、やっぱり僕らは常に非和解性を鮮明にさせ、体制内「左派」を打倒対象だと規定し、「党派性」をむき出しに闘ってきたから、今の法大闘争があると認識しています。誰もがやれる「最大公約数」的なものだったり、どの党派・政治潮流も「そうだね」と言う「正論」をふりかざして闘ってきたわけではない。権力とどこまでも闘って、最後的に勝利するために、激烈な党派闘争を行ってきました。そういう法大の闘いが、いま多くの人が立ち上がる中で、ますます重要になっている。

みんなで「ハードルを下げ」たり、「多くの人に参加できるよ

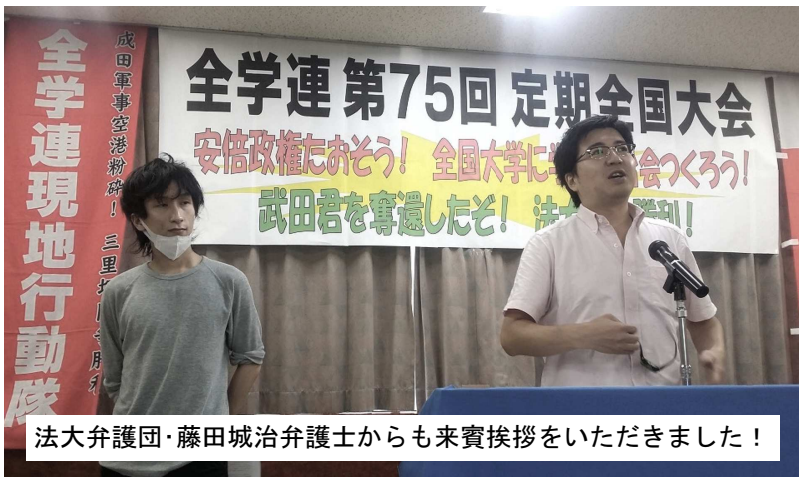


【10/21国際反戦デー闘争】

10月21日(火) 13時半～ 法政大学包囲デモ
15時半～ 国会デモ (予定)



～大学の戦争協力阻止! 「大学改革」粉碎! 安倍政権打倒!～



法大弁護士・藤田城治弁護士からも来賓挨拶をいただきました!

うに」政治色を薄めたり、内容を薄めたりして人を増やそうという「運動論」が一方で根強くあります。しかし僕らは、「最もラディカルなものが最も大衆的だ」という原点に立ちかえって闘っていくべきです。ここに来たまなさんは、ぜひ10・21法大―国会闘争に来てほしいし、僕ら法大生も全力で闘います。

僕は昨日、ある法大生に会いました。自分で言うのもなんですが、確実に学内に味方が増えています。彼もツイッターで知り合ってピラを受け取ったりしてくれていますが、やはり「今の大学はどうしようもない」「全然現実と切り結んでいない」「意味があることをまったく言っていない」「きれいごとじゃないか」と。その割に学費は高いし、「就活できるかも分からないに就活予備校に行っているみたいだ」と。そういう学生は、やっぱりたくさんいます。

沖大の仲間の話を聞いて、非常にそうだなと思ったのですが、沖大に「闘うために入学した」と言っていたことに空気が入りました。やっぱり「7・1情勢」は、一般に悲観的ムードで言われるような「これからどんどん暗黒への坂道を転げ落ちるように戦争に突き進む以外にない」ということとは、全然違うんですね。多くの学生が立ちあがってきている。まだまだわれわれが、そのうねりをつかみきれていない。僕も保釈条件の制限をのりこえ、みなさんと団結してやっていきたい。

昨日話した法大生も、文化連盟のことについて多くの学生

と討論しているんですよ。もちろん右翼的な学生からの反対などもありますが、「『今の大学がおかしい』ということはみんな感じている」と言うんです。だから、僕らが臆せずに政治を持ちこむということです。「学生の政治意識がまだ成熟していないから」だったり、あるいは「この人はまだ『100点満点で60点だ』」なんて言ってこっちから内容を「薄め」れば人が集まると言うことではやっぱりない。僕らが法大闘争8年半で鍛えあげた路線・政治性を、むき出しに学生に提起していく、その中で必ず決起は起こる。

僕も入学当初は学生運動なんてまったく知らなかったわけですが、今ここにいて闘っているけですし、やっぱりこの道を突き進んでいく中に勝利の道があるという確信を新たにしています。ぜひ10・21闘争に、一人でも多くの学友の結集を呼びかけます。そして9月10日の裁判に、とりわけ首都圏の仲間には全力で傍聴・応援しに来て下さい!

◇大会参加の感想(福島大・樋口正太郎)

9月3～4日、全国大学の学生の結集をもって全学連大会が行われました。7・1閣議決定情勢の下で開かれた今大会は参加者が皆積極的に発言を行い、2日間で合計70本もの発言がなされました。今回特に議題となったことは、「ハードルを下げるかどうか」ということでした。「ハードルを下げる」とは、「絶対反対を掲げて闘えば大衆が離れていくから」と絶対反対論を主張せずに闘うことであり、参加者からは「それでは闘えない」といった意見が相次いで出されました。

私自身、絶対反対論で闘えば大衆が離れていくというのはむしろ逆で、それでこそ人を獲得できるのではないかと思います。被曝労働絶対反対を掲げながら闘った動労水戸が、それによって仮設住宅の避難者をも獲得したからです。

7・1情勢下で、本気で闘う勢力の登場が求められています。絶対反対を貫きながら闘うことに人を獲得する力があると信じ、自分の大学での闘いを進めていきたいと思えます。

【当面する行動方針】

●JR郡山総合車両センターの外注化阻止! 9・11集会

9月11日(木) 13時に郡山市・本町緑地に集合 【主催】9・11集会実行委員会

●市東さんの農地強奪阻止! 10・12三里塚全国総決起集会

10月12日(日) 正午～ 三里塚現地にて 【主催】三里塚芝山連合空港反対同盟

●11・2全国労働者総決起集会

◆世界の労働者と団結し、戦争と民営化の道を許すな! ◆今こそ闘う労働組合を全国の職場に!

◆国鉄1047名解雇撤回・JR外注化阻止! ◆集団的自衛権行使―改憲と戦争の安倍政権打倒!

◆福島の怒りを先頭に全原発廃炉へ!

11月2日(日) 正午～ 東京・日比谷野外音楽堂にて

【呼びかけ】全日本建設運輸連帯労働組合関西地区生コン支部/全国金属機械労働組合港合同/国鉄千葉動力車労働組合

●武田雄飛丸君「暴行」でっち上げ裁判・第3回公判

11月7日(金) 13時半～ 東京地裁429号法廷にて ※傍聴券配布のため、13時までに裁判所入口脇に集合してください。